

「モノ」グループ グループ討議報告

作成：助川（文化女子大学）

1. 日時：平成 16 年 11 月 10 日（水）13：00～14：30

2. 場所：慶應義塾大学・図書館 6 階会議室

3. メンバー

・出席 10 名

青木和代（東海大学）、小生方麻里（麗澤大学）、片岡真裕子（東京農業大学）、川越智之（駒澤大学）、楠山直文（成城大学）、助川敦子（文化女子大学）、高田涼子（国立音楽大学）、土屋貴之（法政大学）、森田敦子（東京国際大学）、新見敏子（中央大学）

・欠席 2 名

関全葵（東京家政学院大学）、木村友紀（法政大学）

4. 討議内容（要約）

・「危機管理」の概念を把握するため、各自事前に調べ、発表・意見交換を行った。

・「危機管理」に関する資料、公共図書館（特にアメリカ）の危機管理に関する文献は多いが、大学図書館における危機管理をテーマとした文献は少ない。

一般論を図書館に展開して討議を進めていくか？

公共図書館の事例を大学図書館に応用して進めていくか？

・公共図書館（アメリカ）での「問題利用者」の事例は、日本の大学図書館にはあてはまらないものが多い。

今後日本においても、大学図書館の地域開放に向けて視野を広げていく必要がある。

・図書館が生み出す「危機」も考えられる。

公開に問題がある資料（プライバシーや特許に関する資料など）を保存・管理すること。図書館員自身が資料を延滞すること。設備の問題など

・今後の討議の進め方

・人数が多いため、小グループにわかれて討議を進めるか？

討議が詰まって具体的な作業をするころに分かれるか？

・特定の資料を次回までに全員が読み、それについて全員で討議を深めるか？

特定せずに様々な資料からまとめたものを各自で持ち寄るのが良いか？

5. 決定事項

次回のテーマを決め、それについて各自研究してくる。

12 月のグループ活動の内容は、メール連絡で決める。

6. 確認事項

- ・欠席・遅刻などの連絡は、メンバー全員にメール連絡をする。
- ・報告書の作成・分科会でのグループ報告は代表（土屋）以外で持ち回りをする。

順番：助川 高田 小生方 片岡 森田 新見 楠山 川越 関 助川へ戻る

予定 2004年 11月：助川 12月：高田

2005年 1月：小生方 3月：片岡 4月：森田 5月：新見 6月：楠山

7月：川越 8または9月：関

欠席・分科会講義の議事録の作成と重なった場合などは適宜変更する。

- ・木村（法政大学）がしばらくの間欠席。青木（東海大学）が今回をもって退会。

以上